

日本SOD研究会報

特集 丹羽療法 治療レポート

終末医療の在り方が見える 自分ならどうする？を問う一冊

Book 紹介『サイレント・ブレス』

南 杏子 著（幻冬舎刊）

発行元 日本SOD研究会 宮城
住 所 〒158-0094
東京都世田谷区
玉川1-15-2 B棟2802
TEL. 03-5787-3498
<http://www.sod-jpn.org/>

今回紹介する本は、これまで紹介してきた、医師や学者の方々が医療現場の真実や西洋医療の盲点などを指摘するノンフィクションではありません。一応フィクションで医療小説という形態です。しかし、著者は、終末医療病院に勤務する現役の女性医師。つまり、これは事実に限りなく近い物語だと言えます。

ここには、年齢も性別も症状も違う終末期を迎えた6人の患者さんと、それを看取る医師の物語があります。フィクションととるか、ノンフィクションととるかはその手続の自由です。団塊の世代がシニアになった今、国民4人に1人がシニアという現実を前に、終末をどのように迎えるか、迎えたいか、そこに医療はどこまで必要か、誰もが真剣に考えなければならぬ問題が山積みです。そんななか、この本を読んでいくと、そこにひとつの答えらしきものが見えてきます。

主人公の37歳の女性医師は、大学病院から訪問クリニックへと左遷されます。そこで死を待つだけの患者と向き合うことの無力感に苛まれます。しかし、人生最後の

日々を穏やかに送る手助けをする医療の大切さに気がきます。ここでは、彼女と、その師である先輩医師との会話や、患者との会話をいくつか紹介します。そこから垣間見える医師の葛藤こそが、終末医療の在り方かもしれません。

死ぬための医療ではなく 人生の最後を

生きるための医療
最初は、乳がん患者、45歳の話です。

末期の乳がんで大学病院に入院していたが、自らの意思で退院し、自宅で訪問医療を受けることを選んだ女性が

「大学病院では新しい抗がん剤の治療も勧められたけど、断ったわ。実験動物になるなんてまっぴら」

といい、主人公の医師が
「新薬を試すチャンスをあきらめたんですか？」

「無責任なこと言わないで。本当に効くかどうかかわからないのに、副作用の苦しみに耐えなきゃならないのは私なんだから。あきらめないうちは絶対ないって、あなた、保証できるの？」

何も言い返せなかった主人公。大学病院では、たとえ可能性が低くても、万にひとつに望みを賭けたいという患者ばかりだった。いつの間にか新しい薬を試すことは当然のように思っていた。大学病院で苦しみながら亡くなった患者たちの顔が思い出された。これまでは、医師が新しい治療に挑戦してきた、と思っていた。だが、挑戦していたのは、実は患者の方だったのかもしれない。

「これまで私が正しいと考えていた医療が、本当に正しかったのかどうか……、患者さんと話をしているとわからなくなる時があります。死を目前にした患者さんに、つまり治療法のない患者さんに、医師は何ができるのでしょうか」先輩医師に相談すると

「医学教育が教えてきたのは、治る患者を治す方法、平和な治療ばかりだ。治らない患者の治療法はないからね。戸惑うのも無理ないよ。でもね、治らない患者から目をそらしてはいけない。人間は、いつか必ず亡くなるのだから」患者は「死ぬため」に戻ったというが、彼女は人生の最後を「生きるため」に戻ったのだと思ったのです。

患者は医師の安心のために入院するわけではない

続いては、筋ジストロフィーの22歳男性です。

筋ジストロフィーという疾患は、この本によると、徐々に筋肉が衰えていく病気で、根本的な治療法はなく、最終的には呼吸する筋肉の力までも弱くなる。かつては20歳前後で死に至るとされた難病だとか。

この患者さんは、4歳で

発病し、17歳で歩けなくなり、20歳から人工呼吸器を装着しているという設定。

そのなかでの医師と先輩医師との会話に

「入院を勧めたのですが、本人にも母親にも強硬に拒否されました。入院したほうが安心だったのです」が

「患者は医者の方の安心のために入院するわけじゃないよ」

というくだりがあります。

この話は、様々な事情がからんでの在宅診療希望なのですが、安心のため、つまり医師の側からの論理が常に先に立つものではない、ということに気づかされた話でした。

老化は治せない

死というゴールに向かう医療

そして、これから最も増えゆく老衰性の衰弱患者、84歳女性の話です。

体に特に異常所見は認められなけれど、日常生活の活動性が著しく落ち、食事量も乏しい、処方薬なし、という診断が下された、

歩行も困難な患者さんです。

家族は、リハビリや食事などを勧めるが、患者はリハビリがいちばん嫌なことだという。

「死ぬほどいや。もうたくさん」

家族は

「リハビリしなきゃ動けなくなる。動けなくなったらおしまいよ」

「食べたくない。もういつお迎えが来てもいいの。動けないのに生きていたくないの」

「食べないから元氣になれないのよ」

というやりとりの繰り返し。

訪問介護の医師になって1年たつ主人公は、この1年在宅で暮らす高齢者を診ているうちに自分の考えの変化に気づくのです。

リハビリは無理せず、関節が硬くなるのを防ぐ程度でいい。筋力が弱っているのだから、立ったり座ったり、という作業はものすごく疲れる作業。食欲が落ちるのも、これまでなら、消化器の検査や、栄養を取るための胃瘻などの治療を考えた。が、今は、食べなくなるのも自然の経過だととらえることができた。

先輩医師も、

「老化は治せない。終末医療では、



『サイレント・ブレス』

南 杏子著 (幻冬舎刊)

医療者側も家族も逆算の思考でないか。死というゴールから逆算して、残された時間をどうするかをみんなで考えてあげなさい。肉親が死ぬという事実を受けとめられない家族は少なくない。だからこそ、医師がひるまずに現状を伝える必要がある。ゴールがわかれば、そこから最期をどう生きたいか、という話を始められる」

終末医療は、家族の理解に大きく左右されるということです。何が何でも死なせたくないという家族が言え、やれ胃瘻だ人工呼吸器だと処置をし、患者さんはチューブだらけになって生き続けます。しかもチューブを自分の手ではずさないよう、手足は固定される。このお話は、そんな状態が果たして幸せな終末なのかどうかを問いかけています。

医者にとって死は敗北じゃない

安らかに看取れない

医療こそ敗北だ

終盤は、末期のすい臓がん患者、72歳男性の話です。

彼は、消化器がん手術を含む治療の第一人者で、がんに対する積

極的な治療を主唱する著名な医学博士という設定です。『あきらめないがん治療』『がん治療、手遅れなんて言わせない』など多数の著書で名をはせる大学教授が、終末医療を受けるために自宅に戻った。しかも、主人公の医師が担当することになった。彼女にとって雲の上の存在だった人を自分が診る、この話はそこから始まります。

患者である彼は、申し送りによると、完全に治療拒否。点滴をしながらゆっくり死を迎える、ということでした。

それに対して、彼女は、せめて緩和治療でもと勧めるが、患者は、頑として意味のない延命治療はいらない、の一点張り。そのことを先輩医師に相談すると

「治療を受けないで死ぬのはいいけないことかな。医師には二種類いる。死ぬ患者に関心のある医師と、そうでない医師。医師にとって死ぬ患者は負けだ。だから嫌なもんだよ。よく考えてごらん。人は必ず死ぬ。今の僕らには、負けを負けと思わない医師が必要なんだよ。死ぬ患者も、愛してあげてよ。治すことしか考えていない医師は、治らないと知った瞬間、その患者

に関心を失う。だけど、患者を放り出すわけにもいかないから、ずるずると中途半端な治療を続けて、結局、病院のベッドで苦しめるばかりになる。これって、患者にとっても家族にとっても本当に不幸なことだよ。死は負けじゃない。安らかに看取れないからこそ僕たちの敗北だからね」

と言われるのです。

患者である彼は最後に、20年以上にわたって生存しているスーパージ長期生存者の元患者たちを訪ねて、自分が手術をした患者たちが健康な生活を送っているのをその目でたしかめることに残された命を燃やした。その教授がこうい

「医療にはおのずと限界があるが、多くの医師は闘いをやめることを敗北と勘違いしている。ところが、闘うだけではないずれ立ちいかなくなる瞬間がくる。そのときに求められるのは別の医療だ。死ぬまでの残された時間、ゆったりと寄り添うような治療がいかに大切かを私は身をもって知った」
著者は冒頭に、このようなメッセージを記しています。
「サイレント・ブレス 静けさに満

ちた日常の中で、穏やかな終末期を迎えることをイメージする言葉です。多くの方の死を見届けてきた私は、患者や家族に寄り添う医療とは何か、自分が受けたい医療とはどんなものかを考え続けてきました。人生の最終章を大切にするための医療は、ひとりひとりのサイレント・ブレスを守る医療だと思ふのです」

西洋医学が進歩し続ける中、初めて迎える高齢化社会。私たちは、自身がどのような終末を望むのか、肉親にどのような終末を迎えてほしいのか、真剣に考えなければなりません。今や、病院や医者任せの時代ではなくなっているのかもしれない、そんなことを教えてくれる一冊です。

◆丹羽先生診察ご希望の方は
御紹介、御予約いたします。

※自由診療となります。

丹羽メディカル研究所

☎0120(731)175

もしくは

日本SOD研究会

☎03(5787)3498

まで お電話ください。

丹羽先生に聞きました

抗菌せっけんは害？ それは抗がん剤にも

前回、抗菌せっけんがアメリカで販売禁止になったというニュース（※注1参照）をお伝えしました。そのことに関して、今回は丹羽先生にお話をうかがってきました。命には直接関係しない抗菌せっけんですが、この抗菌という機能が、結局は抗がん剤などの薬害にも関係している話になり、驚きでした。

——先生、アメリカでこのような判断がなされたのですが。

「アメリカの判断は正当ですね。そもそも殺菌剤が入っているということは、菌も殺すが、人間のアクティビティ（活動力）も落ちるということですよ」

——つまり、人間が本来持っている免疫力、抵抗力も殺されてしまうということですか？

「そうです。人間というのは、自分

で治す力を持っている。菌を追い払う力を持っているのに、過剰な殺菌は、それをも落としてしまう。これは抗がん剤なども同じことな

んです。がんを叩いたら、正常な細胞も叩かれる。薬の副作用もいっしょ。免疫抑制剤なども、人間が本来持っているはずの免疫力を抑制するのだから、安易に使っちゃいけない」

——ということは、農薬なども害虫を駆除するけれど、人間にも害がありますよね。

「そのとおりです。さらに土も汚染されて死んでしまう。そもそも虫

日本経済新聞

Web刊 速報 ビジネスリーダー マーケット テクノロジー アジア スポーツ N マネー N ライフ

トップ 紙面運動 連載 社説・春秋 特集 映像 FT オビニオン 統計 米大統領選

抗菌せっけん、米で販売禁止「効果に根拠ない」 トリクロサンなど殺菌剤19種

2016/9/3 11:11

【ワシントン＝川合智之】米食品医薬品局（FDA）は2日、抗菌作用のあるトリクロサンなど19種類の殺菌剤を含む抗菌せっけんやボディソープなどを販売禁止にすると発表した。通常のせっけんより殺菌効果があるという根拠がなく、長期使用の安全性も検証されていないとしている。

一部の米企業はこうした殺菌剤の使用をすでに中止した。トリクロサンを含む製品が多く流通している日本でも影響が出そうだ。

規制対象となったのはトリクロサン、トリクロカルバンといった殺菌剤を含むせっけんやハンドソープ、ボディソープなど。トリクロサンは殺菌効果などをうたう液体抗菌製品の93%に含まれており、2千種以上が販売されているという。

FDAは「消費者は抗菌せっけんは細菌の増殖を防ぐのにより効果があると考えがちだが、通常のせっけんと水より有効だという科学的根拠はない」と指摘した。さらに「殺菌剤は長期的に利点よりも有害となりうる可能性があるとの指摘もある」と警告した。

一部の研究によると、殺菌剤を使うことで耐性菌が増えるリスクがあるほか、ホルモンの動きを阻害するなど健康への影響を懸念する意見もある。FDAは2013年、衛生製品メーカーに、トリクロサンなどの有効性と安全性のデータを提出するよう要請し、販売規制の是非を検討してきた。

今回の規制対象に消毒液や医療機関向けの製品は含まれていない。FDAは通常のせっけんや水による手洗いを推奨しており、せっけんがない環境ではアルコール消毒液の使用を勧めている。



米食品医薬品局（FDA）が販売禁止にする、トリクロサンを含むせっけん＝AP

（上記写真は「日本経済新聞電子版」9月3日付より）

が住めないような野菜や土がいいわけがない。ヒポクラテスの誓い、というのを知っていますか？」

——古代ギリシャの学者ということくらいしか……。

「医学の父と言われている、欧米の医学学校では20年以上も前から必ず卒業式のときにこのヒポクラテスの誓いを宣誓するのです。そこには、頼まれても死に導くような薬を与えない。それを寛らせることもしない、とあるんです。そのことを医者や研究者はもう一度かみしめる必要があります」

※注1 抗菌せっけんに関する

ニュース

米食品医薬品局（FDA）は2日、抗菌作用のあるトリクロサンなど19種類の殺菌剤を含む抗菌せっけんやボディソープなどを販売禁止にすると発表した。通常のせっけんより殺菌効果があるという根拠がなく、長期使用の安全性も検証されていないとしている。規制対象となったのはトリクロサン、トリクロカルバンといった殺菌剤を含むせっけんやハンドソープ、ボ

ディソープなど。トリクロサンは殺菌効果などをうたう液体抗菌製品の93%含まれており、2千種以上が販売されているという。

FDAは「消費者は抗菌せっけんが細菌の増殖を防ぐのにより効果があると考えがちだが、通常のせっけんは水より有効だという科学的根拠はない」と指摘した。さらに「殺菌剤は長期的に利点よりも有害となりうる可能性があるとの指摘もある」と警告した。

一部の研究によると、殺菌剤を使うことで耐性菌が増えるリスクがあるほか、ホルモンの働きを阻害するなど、健康への影響を懸念する意見もある。FDAは2013年、衛生製品メーカーに、トリクロサンなどの有効性と安全性のデータを提出するよう要請し、販売規制の是非を検討してきた。

今回の規制対象に消毒液や医療機関向けの製品は含まれていない。FDAは通常のせっけんは水による手洗いを推奨しており、せっけんがない環境ではアルコール消毒液の使用を勧めている。

(日本経済新聞2016年9月3日付より)

先日(2016年11月6日)丹羽先生、84歳の誕生会が大阪のホテルで行われました。医療やSODに関わる大勢の関係者から、横綱白鵬関を擁する宮城野部屋の女将さんまで、先生の功績や人柄が垣間見ることができた。

そんななか、先生は、今日は難しい話はしないで、ざっくばらんに楽しみましょう、とたごやかにあいさつに立たれました。そして、ボケは定年退職がいちばんいけない。私みたいに仕事を続けていたら、多少ボケて日常のことは忘れても、仕事のことは絶対に忘れないと話され、会場は笑顔に包まれました。

「40年前に体に害のない、がんの生薬を作れないかと考え、天然の生薬、植物の種子から焙煎、発酵、油剤化を経て、SODに始まり、様々な生薬ができました。がんを始めとする難病に、かなりの効果を得られるようになりました。そもそ

も原始人にはがんも膠原病もなかった。活性酸素の関係する病気もなかった。彼らの死因は寄生虫の感染が老衰でした。ところが人類は火の発見によって調理を覚えてしまった。神様がせっかく、人

丹羽先生誕生会

先生の人となり、
心意気、道義が垣間見えた
バースデーナイト



や動物が普段食べている天然の植物種子、大豆、ハトムギ、胚芽などの中にがんや難病に効くものをチェーンでつないで与えてあげてから、強力な胃液でこれを切断して薬にしないかと与えてくれた。

ところが火を使って調理し始めたから、強力な胃液が必要なくなつて、ダメになった。チェーンを切れなくなった。漢方の薬も、チェーンで切れないから、効かない。そこで私はチェーンで切った状態のSODを始めとした生薬を開発したんです。

そうしたら、最近、がんに効くものすごい新薬が開発された、というニュースが流れました。本当に、画期的な抗がん剤であれば、それはそれでがんが苦しむ人が減るのだから良かった、私の出番もそろそろなくなるかなと思っていました。ところが、蓋を開けたら、その薬、一か月で280万円もする。1年で3400万円くらいする。さらに出た。副作用が。オプジーボという抗がん剤です。やっぱりダメでした。

それに引き換え、私は、此処1、2年くらい前から、すごくがんに効果的な生薬が開発でき、かなりの患者さんが助かり始めました。それは、冬虫夏草を焙煎、発酵させて作ったものです。だから、これでみなさんが病気になっても安心してください」

というと、大きな拍手が沸き起



こりました。そして先生のお話は、ここから医療を離れ、自身の青春時代に観た忘れられない映画の話、宮城野部屋との出会いの話に。

映画のひとつは、戦国時代、織田信長が武田勝頼に勝利した長篠の戦を描いた1942年の映画、『鳥居強右衛門』。織田方の長篠城は、武田軍に取り囲まれ、落ちる寸前。そんな中、伝令として動き、武田軍に捉えられ、織田の援軍は

来ないと言え、命は助かると言われながら、味方に織田の援軍が3日後に来ると伝え、武田軍に殺された足軽の話です。

もうひとつは、第二次世界大戦中、硫黄島を舞台に繰り広げられた闘いの映画でした。作品名は不明でしたが、最近ではクリント・イーストウッド監督の『硫黄島からの手紙』に近いものだったのではと思われまふ。先生は、その中の栗

林忠道中将（最終的には陸軍大将）の、負けるとわかってはいたが、日本を守る最後の砦を、身を挺して守るといふ彼の心意気に感銘を受けたと言います。

いずれも、自分を犠牲にして仲間、国を守ろうとした姿に強く惹かれたところに、丹羽先生の根源を垣間見た気がしました。医師会からどんなに攻撃されようが、自らが正しいと信じた道、医師としての命を守るという道義を貫いている先生の姿勢と重なります。

さらに、白鵬関が入門するはるか前から宮城野部屋との縁についても語られま

した。かれこれ50年以上も前、宮城野部屋の横綱、吉葉山が巡業で高知に来た時からの付き合いだと



か。以来、判官びいきならぬ宮城野びいきを貫き、部屋が廃業の危機のときにはひいき筋として支えてきたと言います。若貴時代には、若貴に宮城野部屋の力士が勝てば、診察代を半額にしたという、丹羽先生らしいエピソードが語られました。

そして会の終盤は、84本のローソクを立てたバースデーケーキの登場。ケーキを作ってくれたホテルの方も、ケーキに84本のローソクは初めてのことだと言っていました。その84年分の炎をご子息といっしょに消された丹羽先生。84年の苦難、精進、功績、貢献、感謝が込められた一夜でした。

SOD様作用食品 体験者の声をお聞かせ下さい。

難病で苦しむ方たちが、少しでも早く良い治療法に行き当たるように、本誌では愛飲者の声を募集しています。お手数ですが、

〒158-0094 東京都 世田谷区
玉川1-15-2 B棟2802

日本SOD研究会 宮城宛

Tel 03-5787-3498

までご一報下さい。



黒ゴマキャラクターのゴマっちです。
黒ゴマの健康効果についてお伝えします！

古くから、ゴマを食べると若々しく健康に過ごせるといわれてきました。このゴマの健康パワーの源といえるのが、ゴマに含まれる希少成分のゴマリグナン類、その主成分であるセサミンです。

今月は、肝臓の働きとゴマリグナン類の抗酸化作用の重要性についてレポートしたいと思います。

肝臓は3つの働きを担う
「肝心」な臓器

セサミンの抗酸化力による、肝機能の向上作用についてはお伝えしてきましたが、そもそも肝臓はどのような働きをしているのでしょうか？今回は、意外に知られていない肝臓の重要な働きについてレポートしたいと思います。

肝臓は内臓の中でも一番大きく、位置的にはみぞおちのあたりです。肝臓が大きいのは伊達ではなく、重要という意味の言葉に「肝心」という言葉が使われますが、文字通り、肝臓は心臓と同じく

らい肝心な臓器といえます。肝臓は、私たちの体の中で、次にあげる3つの重要な役割を担っているのです。

①体のパワーの源である「発電所」

まずは発電所としての役割です。私たちが体を動かすのに必要なエネルギーを作り出す場所ということになります。まさに、私たちの活力の源は肝臓にあるといっても過言ではないのです。

肝臓の働きが高まれば、全身が元気になります。逆に弱まると

疲れやすくなり、スタミナ切れの状態になってしまうのです。

②体の部品を作り出す「製造工場」

次は体の部品を作る製造工場としての役割です。私たちが食事で摂取した栄養分は食道を通り、胃や腸で消化吸収された後に肝臓へ到達します。到達したタンパク質や糖分、脂肪などの栄養分を、全身の各部分の役に立つよう作り変えて再び全身に送り出しているのが肝臓です。

肝機能が高まれば、新陳代謝が活発になり、体は健やかに保たれます。逆に弱くなっていると、代謝が滞ってしまい、いろいろな問題が起きてしまうのです。

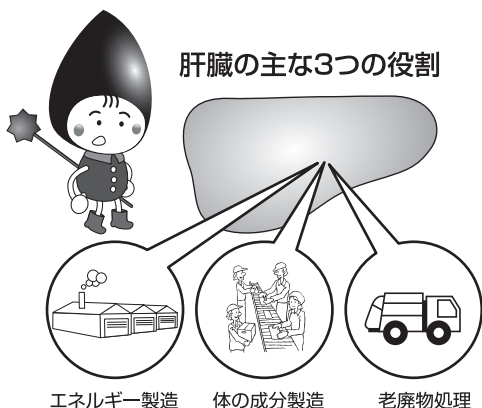
③老廃物を分解する「ゴミ処理場」

次は「ゴミ処理場」としての役割です。

全身をめぐる血液は、体の各組織から不要になった老廃物を運んで肝臓に戻ります。それらの老廃物を分解し、きれいにする役割を担っているのです。

体にとって有害な

肝臓の主な3つの役割



処理がうまくいかず活性酸素がたまってしまうと...



つづく